検証・改善プロセス

［観点Ⅱ　Ｓ評価基準］
　客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認、児童生徒の実態把握を効率的に行った上で、重点的取組の有効性や取組指標の妥当性の検証と改善方策の検討が、「検証・改善プロセス」に沿って効果的に行われている。

検証・改善サイクル

	重点目標 達成指標		重点的取組 取組指標		教育課程	学校運営協議会の 主な熟議内容 （年3～6回開催する場合）
３学期	年度の総括、次年度の目標等を整理	連動	年度の総括、次年度の取組を整理	反映	年度の総括、次年度の教育課程を作成	［３学期（２～３月）］ ◆　１年間の取組の総括、検証・改善等 ◆　育成を目指す子ども像と資質･能力 ◆　次年度の「学校評価の４点セット」案 ◆　次年度の年間活動計画案（行事等の精選･見直し、役割分担の見直し含む）
	次年度の「学校評価の４点セット」案の作成					
１学期	新年度の状況を踏まえ設定	連動	設定	反映	修　正	［１学期（４～５月）］ ◆　育成を目指す子ども像と資質･能力の確認 ◆　「学校評価の４点セット」 ◆　年間活動計画･活動内容 ◆　各取組の進捗管理、検証･改善
	検証		改善	反映	改善	
	検証		改善	反映	改善	［夏期、２学期（７～１２月）］ ◆　各取組の進捗管理、検証･改善
２学期	検証		改善	反映	改善	
３学期	年度の総括、次年度の目標等を整理	連動	年度の総括、次年度の取組を整理	反映	年度の総括、次年度の教育課程を作成	
	次年度の「学校評価の４点セット」案の作成					

POINT☞ 家庭・地域と協働して年度を跨ぐ持続的・発展的な教育活動の質の向上を図るためには、校内の検証・改善サイクルと学校運営協議会の開催時期・熟議内容を連動させ、１年間の検証・改善の成果・課題を基に、次年度の教育課程編成に取組を反映させつつ（カリキュラム・マネジメント）、次年度の「学校評価の４点セット」案を年度末までに策定することが重要

検証・改善フロー

⇨ はい　➡ いいえ

取組（重点的取組・取組指標）が達成できた

- はい → 目標（達成指標）が達成できた
  - はい → **適切な目標、取組設定**
    - ✓ より高い目標を設定
    - ✓ より効果的・効率的な取組に見直し
  - いいえ → **取組設定に問題あり**
    - ✓ 目標に対する取組の有効性・妥当性を検証
    - ✓ 取組の見直しを検討し、取組を継続する場合は取組の改善方策を検討
- いいえ → 目標（達成指標）が達成できた
  - はい → **目標設定に問題あり**
    - ✓ 目標が達成された要因を分析
    - ✓ より高い目標を設定し、取組の見直しを検討
  - いいえ → **実態把握に問題あり**
    - ✓ 取組を継続する場合は取組を徹底し改善方策も検討
    - ✓ 児童生徒の実態を把握し課題を整理し、目標と取組の見直しを検討

教育課程の改善（カリキュラム・マネジメントの充実）

POINT☞ 重点的取組・取組指標をより有効かつ妥当な取組へと改善を図るためには、学習指導要領解説、全国学力・学習状況調査の結果・解説等の各種調査、全国的な先進事例、校内研究等のエビデンスや、生徒・保護者等を対象としたアンケート調査、テスト結果等の短期の検証・改善を行う際の視点を整理しておくことが、視点を揃えて効果的・効率的に検証を行う上からも重要